

実弾射撃訓練やめよ

党滋賀県委が防衛省要請 大門参院議員が同席

滋賀県高島市の陸上自衛隊・饗庭野演習場で9月に起きたパラシュート弾場外落下事故を含めこの4年間に3件の重大事故が連続している問題で、党滋賀県委員会は28日、国会内で防衛省に「実弾射撃訓練はするな」と要請しました（写真）。

要請には高島市の森脇徹、福井節子両市議、きのせ明子県議、佐藤耕平県常任委員ら



が参加し、大門実紀史参院議員が同席。

防衛省側は、連続事故が起きているのは饗庭野だけであることを認めましたが、原因究明などに当たる事故調査機関に第三者を加えるなどに応じないなど、要望にまともに答えることはできませんでした。

●人命・財産が奪われてもおかしくない重大事故

□2015年7月16日 実弾射撃訓練で発射された銃弾が約3.5キロ離れた民家を直撃。瓦屋根を突き破り2階の部屋に落下。たまたま家人が2階にいなかったため人的被害はまぬかれる。

□18年11月14日 訓練中の陸上自衛隊第37普通科連隊（大阪府和泉市信太山駐屯地）発射の迫撃砲弾の破片が国道わきに駐車していた民間車両を直撃。運転していた人は奇跡的に難を逃れる。▽発射の角度が22.5度もずれ▽事故を起こした銃弾が着弾したかどうかの確認をしないまま射撃を継続。事故の連絡が駐屯地に行われた後も6発発射▽最終的に射撃が中止されたのは事故の連絡から57分後だった。演習場外に危害が及んだ場合、直ちに演習を中止するとの高島市と駐屯地の間の「覚書」、陸上自衛隊自身の「達」にも違反。

□今年9月18日 ダイキン工業製作のIRパラシュート弾の射撃試験で場内から1キロ離れた農地（民家から数十メートル）に落下。高島市には事前通報はなく、民間企業の製品の射撃試験であることも知らされていなかった。当日は台風を思わせるほどの強風が吹いており、パラシュート弾が発射されれば場外落下は予見できたのに強行された。発射したのは18年事故と同じ部隊。

●身内調査だけ いずれも組織的な事故だったにもかかわらず、自衛隊の身内だけの調査委員会で個人の人為ミスとされ、短時日で実弾射撃訓練が再開された。

●狭い演習場での実弾訓練の危険は明らか

饗庭野演習場は東西6～8キロ、南北4.5キロの「中規模演習場」。事故を起こした81ミリ迫撃砲の射程は最大5～6キロ。「射撃訓練そのものが場外落下の危険を常にはらむ訓練であり、ここに饗庭野演習場での実弾射撃訓練の特別の危険性」（要請書）があります。要請では一連の事故を踏まえ、饗庭野では実弾訓練を行わないことを強く求めました。

5項目を要望 ①重大事故が連続していることをどう認識しているかを明らかにせよ②事故調査委員会に県・市・専門家など第三者を加え、真に公正な機関に③高島市との覚書を訓練再開に当たっては周辺自治会など住民合意を条件とするなど「覚書」の改定を④あらゆる種類のパラシュート弾射撃訓練は行わない⑤饗庭野での実弾射撃訓練はするな

奈良・橿原市議補選 山崎さん健闘

27日投開票された奈良県橿原市議補選（定数2）で日本共産党の山崎たよさんは参院補選の2.6倍、衆院補選の2.2倍を獲得して健闘しましたが、4位で及びませんでした。清水忠史衆院議員、宮本岳志前衆院議員が応援に駆け付けました。

近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 29(2019.10.29)